

農作物生育・技術情報9号

日高農業改良普及センター日高西部支所

JAびらとり JA門別町

1 水 稲

(1) 収穫作業について

ア 降雨や風により徐々に倒伏・なびきが増えている。品質を落とさないように作業は計画的にすすめること。

イ ほ場に水が停滞している場合は、水田を痛めないように急旋回は避ける。

ウ 倒伏した稲は追い刈りでコンバインの速度を落とし丁寧に刈る。

(2) 乾燥・調製について

ア 既に胴割れの発生が見られている。急激な乾燥は避け、二段乾燥や熱風温度を下げてゆっくり乾燥させること。

(3) 収穫後の透排水性改善、稲わら処理について

ア 走行軌跡に水がたまる場合は、溝堀りなど排水対策を行い、水田の乾燥に努める。

イ 秋起こしは水田の乾燥状態を確認してから行う。

ウ またワキが発生したほ場は稲わらを排出し次年度に備える。

2 主要野菜

作物名	生育状況	技術対策
トマト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4～6段で収穫中。 ・ 高温による着果不良、落花（果）および、空洞果や芯腐れ果が見られる。 ・ 灰色かび病、すすかび病、うどんこ病、トマトサビダニの発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 摘葉等で通気性をよくし、病害の発生を防止する。 ・ 害虫は発生初期の防除に努める。
ハウス軟白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5～6月定植作型を収穫中。 ・ 葉先枯れ症状、アザミウマ類が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫終了後はもみ殻を搬出する。
アスパラガス (ハウス立茎)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 斑点病の発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 斑点病防除は9月中旬までを目安に行う。 ・ 収穫終了後もかん水を行い、自然に枯れ上がるようハウスを開放し外気にあて養分転流を促す。
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生育は良好。上位節の孫づるを収穫中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乾燥傾向ため、うどんこ病の発生に注意する。古い葉は取り除き通気性と日当たりをよくする。薬剤防除は、発生初期に重点を置き、十分な散布量にする。

3 畑 作

収穫時期を迎えました。ほ場をよく観察し適期作業を心がける。

○小豆

コンバイン収穫の適期は熟莢が100%に達し、子実水分が16～18%になった頃である。完熟期後、約1～2週間以内が目安。

子実水分を優先して適期収穫すること。

○大豆

汚粒の発生防止のため、わい化病株・雑草の抜き取りをして収穫に備える。

○秋まき小麦

イネ科雑草と越冬雑草の対策は秋処理が基本。「除草剤使用ガイド」を参考にしてください。秋処理をすること。

4 畜 産 (9月15日現在)

○牧草(2番草) 収穫75%(作業3日早)

最終刈り取りは、刈り取り危険期(下行)の前に行うこと。

アルファルファ 9下～10中、オーチャードグラス・ペレニアルライグラス 10中～10下

○サイレージ用とうもろこし 収穫20% 「糊熟期」100%、「黄熟期」85%・12日早

子実の状態を確認し、黄熟期以降で刈り取る。

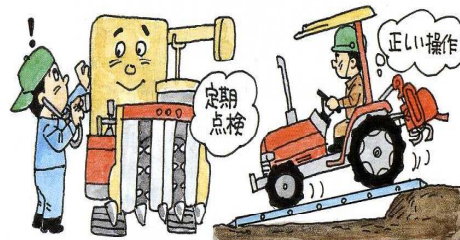
※R5収量調査結果

平取町・日高町(35筆調査) 6,600kg/10a (前年5,800kg、平年6,000kg/10a)

5 秋の農作業安全運動期間です!

秋の繁忙期は収穫等の農作業が増えると共に、日没が早まり、作業中の事故が発生しやすくなる。

- 休憩の取れる無理のない作業
- 農作業や機械作業に適した服装
- 点検・整備は、必ずエンジンを停止させる
- 油断せず後方確認、足下注意
- 農道の走行時は、路肩の状況を確認



事故のない収穫の秋を迎えましょう!